

『読我書楼長暦』翻刻(一)

九州大学附属図書館蔵「吉村文庫」の研究「I」

荒木 龍太郎

関 幹雄

要旨

本稿は、幕末維新期の陽明学者吉村秋陽の日記『讀我書樓長暦』(文政十二年九月十五日〜天保元年閏三月二十九日)の翻刻である。古義学を脱して、三十四才、新たな学問の進展を目指し、佐藤一斎に従学するため江戸に向かわんとする時期の事柄が記述されている。

キーワード

吉村秋陽、幕末維新期、陽明学者、広島藩、佐藤一斎

はじめに

本稿は、幕末維新期の陽明学者吉村秋陽の日記『讀我書樓長暦』の翻刻である。

吉村秋陽、名は晋、字は麗明、通称は重介、隆介、秋陽は号。寛政九年(一七九七)〜慶応二年(一八六六)、享年七十。広島藩支藩三原藩の陽明学者であり、佐藤一斎の高足である。秋陽は青年時代までは山口西園、伊藤東里に従学して古義学を学んだが、次第に

古義学に疑念を懷き、三十四歳の佐藤一斎への従学を契機として陽明学に転じた。一斎は秋陽をしばしば愛日楼に招き、他人には見せなかった「大学古本旁釋」や「大学摘説」の稿本を示すほどであった。一斎に就いてから四十六歳頃までに陽明学者としての学問を確立した。その後、三度にわたる長府督学の任や、四十六歳・五十五歳の東行における佐藤一斎の代講、藤樹書院での講釈、朝陽館(広島城内)、明善堂(三原城内)での教授活動、さらに石見、京都、岩国、多度津での講釈など、晩年に至るまで、広い範囲に影響を及ぼしたのである。その間、佐藤一斎との師弟関係は緊密であり、また池田草庵(一八一三〜一八七八)、林良斎(一八〇七〜一八四九)、春日潜庵(一八一〜一八七八)、大橋訥庵(一八一六〜一八六二)、楠本端山(一八二八〜一八八三)、楠本碩水(一八三二〜一九一六)等とも終生真摯な交渉を継続し、幕末期に名を馳せる陽明学者として活躍した。なかでも大橋訥庵との間で交わされた、王陽明思想が劉念台思想へ与えた影響に関する一連の激しい論争(格致贖議―論格致贖議―弁復書)は極めて高い水準を示している。その門から勤王の士の東沢瀉が出たが、秋陽の学問の傾向は、直接的な政治行動よりは、着実な思索と体認とを重視する。そのため秋陽は佐藤一斎から昌平黌の運営を相談され、また幕末の緊迫した藩行政の相談にもあずかり藩の機密にも深く関わった。秋陽の代表的な著作は以下の通りである。

『王学提綱』(二巻二冊・文久元年自序・文久二年刊)

『旧本大学贖議』(二巻二冊・安政二年五月自序・安政五年七月跋)

『汪武曹四書大全』(二十四卷四十八冊・安政元年刊)

『読我書楼遺稿』(明治十五年刊)

*

*

*

『讀我書樓長曆』は文政十二(一八二九)九月十五日〜慶応二年(一八六六)までの事柄を漢文体で記述した日記である。そのうち、天保二年(一八三一)七月二十四日〜天保四年(一八三三)六月十八日、及び天保七年(一八三六)七月十六日〜十二月十三日(招聘記)の記録は現存しない。今回は「文政十二年九月十五日〜天保元年閏三月二十九日」の翻刻を行った。なお、本稿は、旧稿「吉村秋陽『読我書樓長曆』について(一) 都城工業高等専門学校研究報告18号、一九八四)を大幅に修訂したものである。

凡例

○底本は、秋陽自筆『讀我書樓長曆』(九州大学付属図書館所蔵「吉村文庫」本)である。

○活字化するにあたり、文字は可能な限り底本の通りにした。従って、旧字、新字、簡略字が混在した状態のままにしている。

○底本において割注・小字注で表記されている箇所については、本稿では「」を用いて表記した。

○読解の便をはかり、翻刻者の責任のもと句点・返り点を付した。また、() 内の記述も翻刻者に係る。

○注については、語彙についての注解は避け、固有名詞・地名についての言及に重きを置いた。

○中損、その他により判読しがたい部分は□を用いた。

* 荒木龍太郎(活水女子大学名誉教授) 関幹雄(都城高専)

*

*

*

讀^②我書樓長曆 卷一

文政己丑(十二年)秋九月望曉發。諸子送至^①海田驛。留飲。辰時始分。午買^③肩輿。至^③四日市驛。日已薄^③。虞淵^④。下^④輿憩^④旅次。喫飯。步擔入^③松子嶺。則晚暮矣。嶺半南出向^④三永村。路甚狹窄松柏陰翳。稍入^③溪間。路益暗。時聞^④豺狐之聲而已。急步而漸入^③村。到^③里正山内氏宿焉。方^③初更^③。少覺^③足痛。山氏之子弥一曾從^③余学。是以敬待最至。大慰^③疲。微醉而寢。此日晴暖如^③三四月候。自^③府至^③三永^③九里而遙。

十六日 辰時發^③三永。弥一及一小僕送至^①新莊村^①別。日晡至^②三原城^②投^②都筑氏。足痛未^②痊。忍^②痛訪^③湯淺氏。與^③子亨^③話。叙別而歸。與^③主人^③話。少刻而寢。〔自^③三永^③到^③三原^③七里半。〕

十七日 朝訪^③本莊氏林氏等所^③親。又到^③公館^③候^③安否。夕再過^③飲本莊氏^③。

十八日 午前出^③三原。申時到^③尾路^③寓^③大塚士毅家。士毅南勢人。業^③儒醫。余之故人也。今在^③尾路^③授^③徒。〔已上三日氣候同^③十五日。自^③三原^③到^③尾路^③三里而遙。〕

十九日 午後彭城良達使人來告^③欲^③同遊^①向嶋^①。嶋在^③尾路之南^③。相距七八丁。余往^③彭城氏^③同買渡。至^③嶋中某生家。生広嶋人。為^③其主藤井氏^③管^③鹺田^③者。余亦有^③一面識。主人大喜。供具頗豐。及^③夜而散。主人及^③二三客乘^③醉更送^③余到^③尾路^③。同觀^③劇場。四更歸^③寓。〔此日小雨。自^③曉及^③辰時^③而霽。彭生三盤

嶋人。業醫。曾學于余。今在尾路。」

二十日 在寓。松玄同來話。晚間小飲。「此日終日陰晴不一。」

二十一日 晴。在寓。士毅請為塾生講史記。以今日為始。晚小飲。「此日晴。作書寄本府。」

二十二日 在寓。午前詩僧風牀至話。出其詩稿乞批評。風牀曾往持備中倉敷觀龍寺。有詩名。著風牀小詩風牀詩稿及續聯珠格等。六年前余始遇于本府。「晚小飲。夜同主人訪良達雨窓及龜山生。生不在家。」

二十三日 在寓。「陰。夜小雨。良達至圍棋。雨窓師亦至。雨窓福山人。奉親鸞教者。能書画及詩。余亦曾相知。今在此地。」

二十四日 在寓。午後風牀來話。返所評稿與詩一篇「七律」。作書寄都寧父。良達輩至。小飲圍棋。「終日陰。」

二十五日 在寓。朝良達至。約午後同會雨窓師房賦詩。午前風牀至。復携旧稿乞評。對話數刻而去。午飯畢與主人打棋。二三局便同訪雨窓師俱賦。晚泊。分韻限體詩成。大飲。供具頗盛。余醉殊甚。及三更而散。同會者風牀上人寓主人龜山夢研良達醫生某々主人及余八人。「此日晴暖。午後微陰。」

二十六日 晚間小飲。「氣候同昨。」

二十七日 在寓。午後星野良澤使一奴來告曰小生今日來此地。聞先生亦東遊。可獲相見否。余即訪其逆旅。各叙久闊之意。良澤云小生今住豫州今張府。偶為業往福山府。竣事而還。今張遠邦之學士。先生暫遊今張何如。傍有一人。亦今張商近藤某者亦懇勸行。今畧諾之。然後同出逆旅。飲某妓樓。惡妓數輩侍宴。絃歌嘈雜。將及三更再送良澤至逆旅而歸。寓。良澤本府醫官良悅之子。余之同学。客冬有故去國。「此日晴。」

二十八日 在寓。與主人謀今張行。主人為余筮之得比卦。竟決策欲以十月之初渡海。晚買魚一尾。小飲。「此日陰。夜小雨。」

二十九日 曉地震。今日此地為秋社。朝同主人赴林屋養助之招。食餅飲酒。話少刻而還。晚風牀良達輩來話。余終日患滯飲。意不樂。「此日輕陰。午前始晴。」

晦 在寓。作書託都氏寄家人。午飲畢出街上買炆具。晚與主人散步淨土寺。獨主人勸別杯。「此日晴。」

十月朔 午前買小舟發尾路到弓削嶋。宿土豪中村氏。氏之子在雲渦之塾。與都講二宮叔和皆從焉。舟中風浪甚惡。同舟俱困頓臥篷底或嘔吐。弓削嶋傳言僧道鏡所出。今有其祠。屬豫州今張侯之封。內周廻三里分上下村。土風頗淳古可喜也。夜與叔和賦詩書贈主人。夜小飲。自尾路到弓削六里而遙。「此日晴。」

二日 朝遊「海濱」。濱方七八丁。沙礫如「滌」。老松数千株無「雜樹」。一神宇瀕「海」。所「祠之神某々及孝謙帝云」。席「林間」遠眺「南東」渺茫千里。山影如「拳如」。頭者時出「没乎雲煙之間」。問「土人」云「屬「讚之諸島」也。好景不「可」狀。偶得「一聯」云云。而歸。寓小飲則舟人報「潮」。此日寓主人亦偶有「事」於「府下」。因同「舟」。午前發「弓削」。叔和從「焉」。女子三五人亦同「舟」。皆寓主人之家。舟中言笑喧聒鄙俚可「厭無「敢羞態」」。叔和屢目「余忍笑」。終日無「風無「浪海面如「席」。蓋自「尾路」至「豫殆」二十里而諸島大小數十。主人為「余指點說」。其名多未「曾聞」者。旭日始晡到「今治府」。與「憩」逆旅。問「良澤宅」。使「叔和報」。良澤前夜携「家往」三盤島。門生之居「守者來迎」。館「其宅之側」。奉侍甚謹。小飲入寢。「此日輕陰」。

三日 朝使「叔和詣」中村生逆旅「謝」前日之事。午後生亦來訪。晚小飲。散步買「一魚」遣「中村生」。「晴」。

四日 晨中村生來謝且告「歸」。午前良澤歸喜「余先在」。言日前日別「先生」歸「復諸諸友」。諸友促「余迎」先生。余奔忙未「果」。不「因」既到「日」。午飯畢携「余過」土豪近藤生。生不「在」家。因訪「中村生寓」。生云今日有「事不」果「歸」。因煮「大酒鱸魚」相款。良澤與「生棋」。歸路過「某々生家」謀「開講之事」。「此日晴」。

五日 曉風起陰雲黯黯。終日不「霽」。午飯後散步街中「訪」中村生。晚飯畢少覺「腹痛」。令「泰次按」腹而益甚矣。主人為「調」苟甘加蜀「葵湯」。余亦服「所」貯消毒丸數十粒。偕不「應」。終夕困苦輾轉不「能」睡。

六日 主人晨至。切「脈按」腹云回腸愜種殆見「腸癰證」。因更調「一劑係「蘭方」。服「之則少有「驗」。一日俱服「二劑」。腹塊漸消。劇痛漸減。午前叔和還「尾路」。「終日晴」。

七日 疾半復「常」。浴湯結髮。疾起而後主人夫妻保養殊懇々。是以少懷「土之情」。作「書寄」家人。言諱「於此地之事」。近藤省吾來面與「主人」謀「余僦居」。近藤氏府下豪族。雖「事」商而佩「双刀」列「士籍」云。「晴。微寒」。

八日 病全復。主人更為調「下劑」。終日服「三劑」。與「主人」同訪「光藤禎作」。禎作業「醫」。少年時學「皆川湛園」者。談少刻而還。過「中濱街」視「余僦居」。因命「灑掃」。議「以」明日「移」居。午前歸「寓」。片上良岱在「寓主人家」。與「余相面叙」久濶之情。良岱業「醫」。曾遊「廣嶋」在「星野翁」之塾。亦從「余讀」書。豫州某村人。距今治「一里許」。晚小飲。良岱歸。「晴。夜微雨」。

九日 夜光藤禎作父子來訪。「陰。晚雨」。

十日 晚小飲畢移「於中濱街之客亭」。主人及二門生皆送「余。至」亭喫「茶」。少話而去。客亭頗曠濶清淨可「居也」。庭祠「皇太神宮社中」。買「奴供」爨炊之事。「此日風雨」。

十一日 晨炊畢。令「奴適」市買「家私數物」。以為「涉冬之計」。夜光藤父子來訪。小飲。「晴」。

十二日 朝訪「星野氏」。午後近藤省吾來。久保某々藤井某等來面入門。紹介俱為「良澤」。夜星野氏之內來賀「移居」。光藤父子携「酒

饌到。傾談數刻而去。「此日晴而風。晚益甚。」

十三日 結髮。午後開講孟子及唐詩。諸子來會。「晴。」

十四日 午後講。同昨夜。小飲。往星野。「晴。」

十五日 講。草文一篇。晚小飲。往星野喫晚飯。「晴。」

十六日 結髮。講。晚小飲。往星氏。主人不在家。歸路訪光藤生復飲。快談良久而歸。「晴」

十七日 講。晚小飲。適星氏浴湯。「晴。」

十八日 淨寫舊稿數篇。投示光藤翁。講後近藤省吾招飲。及夜二更而歸寓。同會者星柔克光瑣善。「雨。」

十九日 結髮。講。訪近藤清輔留飲。光藤禎作來會。歸路過光藤氏。主人有密話。適星氏。「晴且風。及夜不已。又陰。」

二十日 講。光藤近藤等來話。晚小飲。適星氏浴湯。訪光藤氏講伯夷傳。留飲為前宵餘話。「陰晴不定。且風稍覺寒。」

二十一日 講。聞星氏有病。往問之。夜川上某至請。藩諸士欲招余。開講筵之事。光藤生來。為講伯夷傳。因命小酌。

川上某亦藩士。「淡陰。」

二十二日 結髮。講。訪病於星氏。得家書。夜同光藤父子訪大

應寺老和尚。「夜陰不定。夜微霰。」

二十三日 適星氏。講。詣近藤清介及星氏。聞弓削嶋中村生到。因訪其逆旅。光藤翁來訪。小酌。「陰晴不定。」

二十四日 訪星氏之病。病漸愈。孟子會讀以今日為始。因約余講孟子三言則復會讀。爾後從此例。川上生及藩諸士等來面請開講。以明夜為期。夜過光藤星野近藤氏俱謀移居之事。「候同昨。」

二十五日 結髮。講。夜川上生來迎。同光藤父子入城。赴山下某家。講論語學而首章。會者十人。講畢供酒饌。驩話及四更而還。「陰寒。」

二十六日 作書寄雲渦。訪中村生託之。因訪星氏近誠輔亦在。云移居議已成。居在室街。當經已二五日而遷上也。講。復過星氏。主人為余之業將風靡一方密謀始末之事。喫晚飯浴湯。歸路過光藤氏謝前宵之事。主人不在家。瑣善迎余云藩之學士玉井某欲今宵介余而見先生。既來在座。而先生幸賜賁臨請相面。可乎。余從之。某懇伸傾瀉之情。余聞三言已知亦一才人頗解懷抱。瑣善命小酌。主人亦歸。此彼獻酬盡飲而散。某及主人父子同送余寓。「朝晴。自午後復陰。」

二十七日 適星氏。藩士堀江川上二生來謝開講之事。講。今夕督學豐田某病沒。藩士多出其門。故皆服心喪。因告暫休講之事。「晴陰不定。」

二十八日 適「星氏」。以「微恙」乞「藥」。會讀。晚又過「星氏」浴湯。
 歸路訪「近誠輔」不「在」家。「晴暖。」

二十九日 結髮。藩大夫鈴木某之子兄弟來面。近誠輔來話。講。將「謝」前日以來訪「諸士之家」。謝「之謀」之「光藤生」。生父子導余入城到「某宅」皆不「在」。投「刺」而去。到「鈴木氏」。氏兄弟自「廳」事出迎。太夫亦出面話數刻供「酒饌」。山下某亦侍飲。夜「二更」辭還。主人父子及山下生俱送到「廳事之下」。固辭不「聽終始致禮甚盡」。歸路同「光氏」過「近省吾」謀「移居之事」且謝「其勞」。又過「星氏及近誠輔」。雲渦之書達。「晴暖。」

十一月朔 拉「光藤生」入城到「諸士之家」。歸路訪「星氏」。講。鈴木山下「二士」來。藤井生招飲。藩醫中村良楨亦到請「入門」。「晴。晚風寒。」

二日 訪「近誠輔」。喫「午飯」。適「星氏」。講。夜禎作誠輔到會「讀韓文」。小飲。「陰晴不定。」

三日 適「星氏」。結髮。會讀。鈴木生及光藤翁來話。夜小飲。又適「星氏」。「陰晴不」。

四日 講。晚小酌。適「星氏及光藤氏」。「晴。」

五日 講。拉「村生」二人「散」策西郊。歸路過「光藤氏」喫「飯飲」酒。「晴。」

六日 結髮。作「書數通寄」鄉。茶屋生携「余及久保宜哉」光藤岡本「二生」拜「大濱八幡神祠」。大濱去「府北」一里許海浜。闔村皆漁戶。席「山陂」大飲。夜初更踏「月而歸」更適「星氏」。休講。「晴和似「二月之候」。」

七日 適「近誠輔」謀「移居之事」。講。晚小飲。夜韓文會讀。光藤氏餉「餠餅及熟菜鮭」。「雨。晴霽而風。」

八日 朝遷「居近誠輔之宅」。會讀。弓削中村武兵衛到達「雲渦所」。傳致「珠文及伯氏之書」。鈴木生惠「魚一尾」。夜與「主人」賦「詩」。小飲。「近午風歇而晴。」

九日 講。夜韓文會讀。「陰晴不定。」

十日 適「星氏」。光藤近藤星氏三子為「余相」新街之館。講。主人歸。請以「明夕」移「居」。夜小飲。「晴。」

十一日 講。新街之居落成。與「近誠輔」往遷。諸子來賀。酌「酒為煖房」。「晴。」

十二日 朝適「星野光藤近誠輔及近藤氏謝「傲居之事」。會讀。夜韓文會讀。小飲。「陰晴不定。夜電雷雨。」

十三日 講。課「諸生」而執「事」。適「星氏」浴湯。韓文會讀。「晴暖。夜雨。」

十四日 訪「星氏」。講。小飲。夜為「諸藩士」開「講孫子」。「晴暖。」

十五日 朝適「星氏」。歸路過「皇太神祠」。灼「艾肩背」。講。小酌。夜過「星氏」浴湯。「同昨日」。

十六日 休学。午後小酌。拉「岡光宮佐諸生」散「策西郊」觀「日吉村之城趾」。趾昔日河野氏之堡也。孝靈帝之皇子某自「始賜「豫州」称「越智御子」。世守「其國」為「名族」。後改「河野氏」云。久保其流。招飲。「陰晴不定」。

十七日 訪「星氏」獲「家信」。會讀。晚光翁携「所」釀濁酒對酌。復往「星氏」。韓文會讀。「陰晴不定」。

十八日 講。小飲。訪「星氏」浴湯。夜韓文會讀。「晴」。

十九日 訪「星氏」同談「心事」。講。夜詩會。「晴。午後微雨。晚歇」。

二十日 講。晚過「近藤誠介」棋。主人供「酒飯」。三更歸「寓」。「晴而風」。

二十一日 會讀。夜韓文會讀。後小飲。「晴」。

二十二日 訪「星氏」。講。浴湯。夜韓文會讀。「晴。晚來雨」。

二十三日 發「家書」。講。訪「星氏」。韓文會讀。「陰。午後霽」。

二十四日 訪「星氏」。講。夜講「孫子」。又過「星氏」。「陰晴不定」。

二十五日 訪「星氏」喫「午飯」。會讀。夜過「誠介」棋。「晴」。

二十六日 休学。拉「光宮佐三生」遊「國分寺」謁「脇屋義助之墓」。寺在「城南國分村」。去「今治」一里許山中。墓在「其東與」寺相隔一丁餘小阜之上。而其城北之一山則國分城之墟也。昨「河野氏」之所構市（墨筆見消）後「福侯正則居」之。日暮歸。過「星氏」浴湯。赴「鈴木氏」會話之約。誠介亦來會。余為「主人」講「伯夷傳」。「晴」。

二十七日 講。冬至。夜諸子來會。酌「酒賦」詩。「雨」。

二十八日 訪「星氏」午飯。講。夜韓文。「晴」。

二十九日 過「星氏」。講。夜二更後小酌。復過「星氏」談「心事」。「晴」。

晦 會讀。夜訪「光藤氏」小酌。「陰」。

十二月朔 朝拜「太神宮」。過「近誠輔星氏」及移居之時有「佐其事者某々等家」謝「之」。近省吾有「喪弔」之。文會。「晴」。

二日 訪「星氏」。講。夜過「誠介」棋飲酒。「晴」。

三日 講。夜韓文會讀。同酌。「陰。午後風雨甚」。

四日 過「星氏」。會讀。夜講「孫子」。「晴」。

五日 講。同「光藤生」入城。訪「藩士某之家」。夜浴湯。適「星氏」小酌。「晴。午後陰。夜微雨」。

六日 休学。同「光藤玉井」二子及諸生「遊西郊」過「飲南生處」。「陰寒。」

七日 講。夜韓文會讀。畢皆散獨與「鈴生」薄飲。生為買「下酒之具」。
〔雨。〕

八日 講。夜以「微恙」罷「韓文會」。因過「星氏」食「鹿肉」頗覺「支體之快」。「陰。晚稍晴。」

九日 會讀。夜詩會。「陰。」

十日 講。過「飲鈴木氏」。歸路訪「星氏」。「陰晴不定。」

十一日 講。夜韓文。「同昨。」

十二日 適「星氏」。講。浴湯。晚小酌。又過「訪星氏」。「晴。」

十三日 會讀。夜過「飲光藤氏」。歸路訪「星氏」。「晴。」

十四日 過「誠介」談「星氏之事」。又過「星氏」。講。夜講「孫子」。更過「星氏」。「晴。」

十五日 拜「皇太神宮」。過「久保宜哉」賀「孝子」問「近省吾起居」。訪「星氏」。午前獨酌。講。夜光藤翁近誠輔柔克來打「算余之費用」。余過「誠輔宅」與「佃生」棋。主人亦歸。飲酒。歸路再過「星氏」密談「事」。「雨。」

十六日 放学。晚浴湯。訪「星氏」。夜復往飲「酒」。「陰。午後大雨霰。」

十七日 講。夜過「星氏」。「陰晴不定。」

十八日 朝訪「星氏」。講。夜又過「星生」。「陰晴不定。夜風雨。」

十九日 獲「家信」。過「話星氏」。講。歲晚勿劇以「今日」撤「帳」。夜訪「星」。「陰。」

二十日 訪「星氏」。夜過「誠介」棋小飲。「陰晴不定且風。」

二十一日 晚宮本生到對酌。訪「光藤」。適「星氏」。「晴。」

二十二日 午前小酌。晚浴湯。鈴木生來貽「章魚」。言「所自漁」。即作「羹呼」宮生與食之。「陰晴不定。」

二十三日 午後過「鈴木氏」。歸復到「星氏」議「事」。「陰晴不定。」

二十四日 往「星氏」。午前與「宮生」小酌。夜過「誠介」棋。又過「星氏」。「晴。」

二十五日 家君忌日在「明日」。以「故心齋終日」。「陰。」

二十六日 朝赴「星氏」之招「議」事。「陰。」

二十七日 晚浴湯。適「星氏」。「晴。」

二十八日 午後岡本生到對酌。夜訪「誠介」棋。歸路過「星氏」。「晴。」

二十九日 岡本生來以「寓」。頗多「俗事」。夜話「星氏」。過「誠介」與「佃生」棋。「晴。」

三十日 午後過「所」親賀「歲暮」。浴湯。夜過「誠介」與「佃生」棋飲酒。又過「星氏」。「陰。午後雨。」

文政十四(天保元年) 庚寅正月

朔 晨起盥櫛着袴拜「天地四方」又遙拜「祖先之靈」。午前小酌。掛筆「三紙」。晚過「星氏」賀「履端」。「晴。」小飲。「晴。」

二日 午前小飲。終日多「賀客」。晚適「星氏」議「身計」。「小雨。午」前稍歇。終日頑陰。」

三日 午後過「近藤及光藤氏」。賀「履新誠介宅」。與「佃生」棋供「祝酒」。「陰。午後小雨。夜風。」

四日 午後詣「諸生之家」賀「履端」。歸路過「誠介」棋。夜與「岡生」對酌。「晴。終日風。夜益甚。微雪。」

五日 午後過「話星氏」。「陰晴不定。」

六日 午後過「藩諸子」賀「新禧」。町野氏供「酒飯」。光藤子亦到。「晴。」

七日 發會。晚淺酌。訪「星氏」。「陰。夜雨。」

八日 講。晚星氏招飲。「晴。」

九日 講。晚浴湯。夜詩會。會後與「諸子」小酌。「陰霽不定。夜小雨。」

十日 午飯後散步海濱。講。夕又散步西村。夜誠輔招飲棋。「晴。」

十一日 午前小飲。散步。會讀。夜訪「星氏」。「晴。」

十二日 立春。講。拉「光生」賀「歲首於藩諸子家」。夜小酌。訪「星氏」又酌。「晴。午後陰。」

十三日 講。午後招「一相者」。相「余前途吉」。夜韓文會。「陰晴不定。」

十四日 講。晚散步海濱。夜過「星氏」談「心事」。又過「誠介」棋。主人供雁「飲酒」。「晴。」

十五日 朝謁「皇太神宮祠」。過「誠介」棋。喫「午飯」歸。以「上元」休學。夜與「岡生」對酌。「陰晴不定。」

十六日 休學。晚散步街中。歸路過「星氏」。「陰晴不定。晚風微雹。」

十七日 會讀。晚浴湯。夜過「話星氏」。「陰晴不定。」

十八日 講。夜韓文。星氏迎余婦小酌。議「身計」。「晴。」

十九日 午後光氏父子拉余及佃宮二生泛小舟於海遊大濱之海上。更乘一大船。是亦光氏之物。飲酒頗多。興久捨舟到大濱步歸。更過光氏小酌。二更歸家。是以講及詩會俱休。雲過書到言「雨窓之事」。與岡生酌別杯。「晴。」

念日 晨岡生辭余塾赴松山府。朝適鈴木氏賀復職。歸路過星氏議「心事」。講。晚浴湯。復過星氏議。夜復到復議。「陰。晚雨暖。」

念一日 講。午後散步海濱。過「話星氏」。夜復過。「晴暖。」

二十二日 會讀。夜過誠介棋小飲。「晴。」

二十三日 講。午後過海濱逍遙。過星氏議「上都」。夜韓文。復過星家飲食。「晴。」

二十四日 灸背。以故休講。晚過星氏。夜訪誠介棋。歸與飯生對酌。光翁亦到。「陰。」

二十五日 講。午後訪星氏喫飯。「陰。夜雨。」

二十六日 休學。朝訪星氏議「歸計」。午後為諸生書數十紙。夜久保宜哉携饌觴余。星氏夫妻及飯塚宮本鎌田生來待飲。誠介

亦偶至。二更晚散。「晴。」

二十八日 揮筆畢。會讀。弔鈴木大夫喪留話。初更歸到星氏。鈴翁有謝訪。此日報歸期於鈴氏。鈴氏父子懇留之。「陰。」

二十九日 適禎作。誠介先歸。訪星不在家。講。晚浴湯。過星。夜連過誠介與佃田生棋。歸與飯藤二生小酌。「晴。」

二月朔 朝拜皇太神宮祠。歸路過星氏。講。余上都在近日。故以今日撤帳。夜以金匱釋義雌黃竣事。適誠介附之小飲。又過星氏聞「身計之吉」。「晴。」

二日 朝揮筆。午後光藤翁父子訪余乘小舟遊波止濱鱈田。飲食頗豐。夜初更後歸。又過星氏。「晴。」

三日 揮筆。午後裁家書。訪鈴木氏。歸路過星氏。「陰。晚雨。」

四日 自午前與禎作父子飲。晚浴。過星氏。「陰。午後微晴。」

五日 朝發家書。午訪諸子告別。夜赴山下氏為藩士講左傳。歸與諸子飲。「晴。」

六日 午後過藩諸子告別。夜為藩士所邀復赴山下氏聽村上生之講。留飲。「陰晴不定。」

七日 午後過星氏。又過鈴木氏叙別。二更歸。復過星氏將

議黃事。主人不在家。〔晴。〕

八日 上都在十日。諸子多來侍者。晚同飲。夜過星氏。〔陰晴不定。〕

九日 午適星氏告別。晚光藤諸子設酒來觴余。諸藩士亦來。

〔晴。〕

十日 舟人違期。午前與諸子飲。午後同遊日吉城跡。歸路過飲南生。〔陰。〕

十一日 昨來微風邪未全痊。終日平臥。夜為藤生所請力疾赴飲。早歸。〔陰晴。〕

十二日 晚浴湯。夜大飲。〔殊晴溫。〕

十三日 夕發今治到波止濱待舟。光南卜三生送同到宿州舍大飲。〔陰。晚雨。〕

十四日 在客店。午前卜氏先辭歸。午後小飲。晚又到濱上。乘與光南二生別。舟發夜到登茂浦而泊浦。去今治三里。〔雨。午後晴。〕

十五日 發浦。風快甚。午前到軺津^①。以風甚而泊。浴湯結髮。午後率諸舟子上酒樓大飲。歌妓某到。夜飲舟中。妓亦到。此日上待潮樓。自登茂浦至軺津十里。此夜月食皆既。自初更到三更。〔晴。〕

十六日 朝發軺津到牛窓^①。二十里。浴湯。小飲。〔晴。〕

十七日 朝發牛窓泊室津^①。十里。晚小飲。再浴湯。〔晴。午後微陰。夜雨。〕

十八日 朝發室津風疾浪濤。未牌至赤石^①下錠。浴湯。拜人丸祠。自室津至赤石十三里。〔晴。午後一陰一晴。夜雪寒甚。〕

十九日 午後發赤石到兵庫。五里。晚浴湯。買魚飲酒。更携舟人飲街南某樓。〔陰晴不定。晴。微雪。〕

二十日 晨發兵庫。未牌到浪華。十里。宿新堀客店。以久在舟中體頗不快。浴湯按摩。夜舟子等來候安否。拉散步街上小飲。體稍快。〔候同昨日。〕

二十一日 午後訪油屋久萬小飲。更訪阿部良平藤沢東咳^①。東咳余舊知也。〔陰。午後稍晴。〕

二十二日 移寓油屋生宅。午後訪小竹翁^①不在。往天王寺觀樂舞。此日晴和遊人填街。寺前石華表有銅額曰釋迦如来轉法輪處當極樂(土)東門中心。小野朝臣道風所書也。字形古樸不可悉認也。夜歸寓。浴湯飲酒。〔晴。〕

二十三日 午后再訪小竹閑話喫午飯示舊稿數篇。歸路過話東咳。又拜天滿天神祠。夜小飲。〔陰。晚晴。〕

(二十三日から二十六日までの上欄外に) 小竹。斎藤町尾崎橋ノ西。繚洲。西横堀敷津橋東詰北角。東咳。淡路町渡邊筋東へ入ル南側。寛五。淡路町井池筋西へ入(ル)北側。

二十四日 舟子等来訪。拉¹拝住吉神祠。帰浴湯。〔晴暖。〕

二十五日 午後同寓主人遊堀江。藤東咳来報會期。以余不在留書而去。〔晴。〕

二十六日 午後訪小竹繚洲及松本寛五。晚訪東咳繚洲。亦携酒肴到。劇談及半夜。余終投宿。〔晚。〕

二十七日 朝辭東咳。東咳到岐路。卒帰寓。小飲。〔雨。〕

二十八日 朝將赴¹漢府雨未休。乃止終日在寓。浴湯。小飲。〔雨。午後霽。〕

二十九日 午前發浪華取途於河州¹。拜佐多天満宮祠。又拜男山八幡宮祠。夜到淀府訪姑氏宿焉。浴湯小飲。凡自浪華到伏水及淀府挾漢水而分東西。余所由者東路經撰河二州入城州。八里。佐多祠傳云菅公食邑于此。有公所書屏風奉祠之者也。男山祠宇尤宏麗。〔晴。午後陰。〕

三月朔 午後訪府教授荒井半藏¹。半藏阿波人往年為淀侯所聘招名平時。曾遊我廣島。余與定交。雁魚不絶者。數年屢促余上都。於是往通謁即出迎大喜叙久瀾之情。既而酒魚雜進

且談且酌。半藏四男長字中井氏在懷德堂一為兼葭堂所養。第二子年十八幼者十歲及一門生皆来侍。及夜主人懇命宿。因約明日更来。辭帰寓將三更。〔大雨。〕

二日 余之將發浪華也。衣具及書籍納之一筐前二日託寓主人命某客店通送淀府。而到今日猶未達。待之終日卒不得。訪荒井氏。〔陰。〕

三日 佳節。浪華之信尚杳然。姑及諸從姊妹皆慮有失勸余再赴浪華。午前か自淀城買舟而西。申牌至浪華復寓油生議按其事。小飲浴湯。〔陰晴不定。〕

四日 午後遊稻荷祠飲帰。夜同主人及某々等到西国橋下之酒肆啗鯉汁炙鰻(縦線・省略記号)大飲。〔陰晴不定。夜小雨。〕

五日 將還淀府雨不克還。〔雨。〕

六日 淫淋不止終日在寓。無聊甚。小飲浴湯。〔雨。〕

七日 午前出浪華由西路而進。迂曲甚。拜大山崎八幡祠。此地為往日戰場。天王山宝寺皆在其地。夜漸入淀府。八里程。浴湯。〔陰晴不定。晴微雨。〕

八日 午後訪荒井氏留飲。因宿焉。〔晴。〕

九日 在荒氏借覽奇書。午後飲且閑話。〔雨。〕

十日 將「辭入」京師。主人以為花期猶遲。懇留不止。午後偏視「所藏金石圖文拓本數十百紙」。多「奇品」。晚大飲。「雨。」

十一日 午飯畢。主人約「還今夕」遊「……(三点・省略記号)」乃還。姑氏束裝以將「明日入」京也。晚適「荒氏」小飲更過「養源寺」。寺主業隱三次人。款待更酌遂宿。「陰晴不定。」

十二日 朝自「養源寺」還「姑氏」。午飯。發「其家」入「京」。三里。夕到「書肆吉治」。又訪「詩禪」話口。借「館於二条木屋街」。夜小飲。「晴。」

十三日 朝訪「曾谷氏」得「家信」。因知「幼女死」。午飯同「氏」。又過「植村生」不在「家」。訪「摩島梅辻諸子」閑話。晚歸。悲傷未除。此節懷甚。乃招「同寓奥田生」俱飲。生與人為「卷弘齋門下」善書及詩。「雨。」

十四日 朝訪「星巖」議「江府之事」閑話。歸發「家書」。午後到「長樂寺」花候猶早。歸與「星巖」訪「賴子成」飲「山紫水明榭」。豐後人中「嶋子玉筑前人德永子宝」在「座」。醉後「家先去」。子成使「余論」文。每「言稱」善。因日子既得「八九分」。今姑說以「我所」得者「云々」。其說亦可「聽」。所謂士不「虛有」名者於「子成」見之。最後與尚「論古今」。主客驩然。歸「寓則將三更」。「陰晴不定。」

十五日 朝訪「星巖」。午後過「訪北小路大學助」達「光藤氏所」託書。「拜」菅廟「更散」步「東山」。「晴寒。」

十六日 朝訪「星巖」。午後同「星巖」到「東山碧雲樓」猪飼翁壽筵⁽¹⁾。會者百餘人。洛下名士皆集。通名相面數十人。酒饌豐備各罄「歡」。及「夜與」星巖「先歸」。浴畢與「同寓」話。「陰晴不定。」

十七日 猪飼氏壽序腹稿成。午後同「後藤生」及某生「拜」清水寺大士。又過「長樂寺」看花飲酒。樓舞妓某來侍。夜始散。歸路宿「鴨水之西某樓」。半夜余獨先歸。「陰雨。」

十八日 「雨」

十九日 午後再赴「淀府」投「姑氏」。訪「鳴門」不在。乃過「養源寺」小飲宿焉。浴湯。「晴。」

二十日 朝過「話鳴門」。午前同「棠隱師」遊「伏水桃山」飲「酒肆」。因買「小舟」而還。宿「養源寺」浴湯。此日大醉遺「夾袋於路」。「晴。」

二十一日 歸「姑氏」。以「微恙」斷「酒」。「晴。」

二十二日 病稍快。午後往「鳴門家」觀「法書」。晚歸。「晴。」

二十三日 午後浴湯。過「鳴門」告「明日歸」京乞「附書」江戶諸子。話數刻酌「別杯」還。「晴。」

二十四日 朝過「鳴門」取「附書」。告「別養源寺」酌「別杯」。午後發「淀府」歸「京」。浴湯。夜同寓加州某生設「酒引」歌妓到余漸歸。「晴。」

二十五日 與_二奧人奧田健吾及某々生_一到_二嵐山_一看_レ花。花期方好。絕妙不_レ可_レ言狀。携_二行厨_一杯。歸路過_二秦邑光輪寺_一。花亦好。余到_二三条橋_一與_二諸子_一別獨看_二花頂山門外花_一。賴山陽及同寓_二三河都築_一同飲_二花下_一揖_二余上席_一。復飲_二一杯_一而辭。還浴湯。過_二訪詩禪_一話別。〔晴。〕

二十六日 午後被_二文稿_一訪_二山陽_一不在。属_二稿内人_一。還後過_二華頂山_一小飲。〔晴。〕

二十七日 晚過_二後藤生_一小酌。歸後浴湯。〔晴。〕

二十八日 發_二家書_一。午後小酌。訪_二仁科梅辻_一不遇。訪_二小森氏_一問_二池適齋之信_一。歸路過_二曾谷氏_一亦不遇。〔晴。〕

二十九日 朝過_二東山_一遍觀_二花小_一飲_二南禪寺_一。午後再為_二諸子所_一携過_二東山某々氏_一。多_二與不_一可_レ言也。叱。〔晴夜雨。〕

三十日 午前小飲。午後從_二同奧田生_一過_二飲光玄院_一。夜歸。〔雨。午前霽。〕

閏三月朔 午後浴畢發熱。疝_一大動平臥乞_二奧田生藥_一。〔陰晴不定。〕

二日 終日臥_レ蓐。〔候_二同昨日_一。夜雨。〕

三日 臥_レ蓐。差似_レ快。〔雨。〕

四日 在_レ蓐。大覺_二苦憊_一。夜東本願寺聚材場火。〔陰霽不定。〕

五日 〔晴。〕

六日 〔同。〕

(六日から十二日までの上欄外に) 堺町御池下ル。□□。

四条高倉西へ入ル。摩島。

西堀川佛光寺下ル。植村。

柳馬場二条上ル。仁科。

東洞院端上ル。小森。

二条柳馬場西へ入ル。吉治。

七日 〔同。〕

八日 到_二今日_一猶未_レ快。僊益甚。乞_二京醫_一。岡田氏診服_二□某_一不利。三和□□□□湯少覺_レ快。終曾大□白□。〔夜雨。〕

九日 漸快。諸症俱滅。得_二加藤小野二生書信_一。〔雨。晚霽。〕

十日 得_二町野氏書_一。病稍復。結髮。試散_二步近街_一。未_レ能_二健步_一。忽歸与_二同寓_一微飲。〔晴。〕

十一日 夜岡田氏来診。浴湯。〔陰晴不定。〕

十二日 晚與_二平山氏_一小酌。〔晴。〕

十三日 朝適_二岡田氏_一乞_二藥_一。午後散步到_二黒谷_一。晚小飲。〔晴。〕

十四日 在_レ蓐。〔陰。午後雨。〕

十五日 適_二岡田氏_一乞_二藥_一。〔午前雨。霽。〕

十六日 太上皇幸_二修学寺_一。余晨起與_二同寓某_一力疾到_二糺河原_一拝觀儀伏。午後遊_二誓願寺_一。〔陰晴不定。〕

十七日 午後遊_二東山_一拝_二清水寺大士_一觀_二蕃客_一。〔晴。〕

十八日 過_二岡田氏_一以_二疝稍快_一更乞_二痔疾藥_一。午後作_二家書_一。〔晴。〕

十九日 乞_二藥於岡氏_一。今日已後每灸_二背腰_一。〔同。〕

二十日 灸。午後遊_二誓願寺_一入_二射場_一。〔同。〕

二十一日 乞_二藥_一。灸。痔病頗快。午後與_二同寓_一棋賭_二酒_一。余勝_レ之。〔陰。午後雨。〕

二十二日 灸。午後岡田氏至。煮_二泥鰯_一供_二酒_一。〔雨。〕

二十三日 灸。乞_二藥_一。午後遊_二紫雲山射場_一。〔陰。〕

二十四日 訪_二植村生_一。午飯。歸路過_二岡田氏_一謝_二病痊_一且告_二別_一。〔以_二微風邪_一休_レ灸。陰晴不定。〕

二十五日 以_二余東行在_一近所_レ齋書及衣具先送_二致東都_一。午後謁_二

北野聖廟_二禱_二東行無_レ恙_一。夜淀府前田生来_レ宿。以下從_二余東行_一之約_上也。〔晴。〕

二十六日 午後灸。前田生再有_レ事赴_二淀府_一。〔晴。〕

二十七日 午後灸。明日將_レ発而足痛未_レ痊。復緩_二一日_一。浴湯。前田生帰。〔晴。〕

二十八日 灸。夜同寓餞_二余_一。〔晴。〕

二十九日 朝同_二前田生_一發_二京師_一。同寓及逆旅主人送到_二三条橋_一。午前到_二大津駅_一。午飯_二石場_一。自_二草津_一取_二途於左方_一。此為_二美濃路_一。宿_二守山駅_一。〔八里。凡_レ自_レ發_二京到_二東都_一□□訪□跡□□□別記。晴。〕

* * *

注

自「はじめに」至「讀我書樓長曆」(題)

(1) 荒木龍太郎・荒木見悟『吉村秋陽・東沢瀉』(叢書日本の思想家⁴⁶、明德出版社、一九八二)

(2) 底本には題簽・外題・内題は無い。ただ、後年の冊子に「讀我書樓長曆」とあるので、ここでは論者の責任で仮に「讀我書樓長曆」と表記した。

九月望

(1) 海田驛Ⅱ西国街道の宿場。現在の広島県安芸郡。

(2) 四日市驛Ⅱ西国街道の宿場。現在の東広島市西条町。

(3) 松子嶺Ⅱ現在の東広島市高屋町に位置する松子山のことか。

(4) 三永村＝現在の東広島市西条町上三永・下三永。

九月十六日

(1) 新莊村＝広島県山県郡(現・北広島町)の新庄村のことか。

(2) 三原城＝広島支藩三原藩浅野氏の居城。現在、城跡の真上に山陽新幹線三原

駅(広島県三原市)がある。

(3) 湯浅氏＝湯浅子亭(一七八一～一八三八)、名は復、字は子亭、号は華崖。

三原藩儒。広島藩儒加藤定斎に入門し、朱子学(闇斎派)を修め、朝陽館(三

原藩広島城内)で子弟の育成にあたる。秋陽は二十一歳の春より入門し、朝

陽館の助教をつとめていた。

十九日

(1) 向嶋＝向島のこと。現在の広島県尾道市に属する。

二十二日

(1) 僧風牀＝釈風牀、名は教存、号は風牀行人。備中の人。『続聯珠詩格』、『続聯

珠詩格補遺』、『風牀詩稿』、『風牀隨筆』、『風牀小詩』を著す。

二十五日

(1) 夢研良＝龜山夢碩か。夢碩、名は士綱、字は紀卿、号は夢碩。備後の人。尾

道の儒者。

二十七日

(1) 良悦＝星野良悦(一五七四～一八〇二)、名は寧、字は子康、号は柳子。良悦

は通称。安芸の人。蘭方医であった。

晦

(1) 浄土寺＝現在の広島県尾道市久保町にある浄土寺(真言宗)のこと。

十月朔

(1) 弓削嶋＝愛媛県北東部の弓削島のこと。

(2) 篷底＝船底・船中を指す。

五日

(1) 蜀葵湯＝蜀葵根とも。整腸・利尿作用のある漢方薬。

六日

(1) 愀種＝炎症のこと。

(2) 腸癰＝ちようよう。虫垂炎のこと。

七日

(1) 僦居＝借家住まいのこと。

八日

(1) 皆川湛園(一七三八～一八〇七)、名は愿、字は伯恭、号は湛園。折衷学。京

都の人。

(2) 中濱街＝現在の愛媛県今治市中浜町か。

二十二日

(1) 現在の山口県岩国市にある曹洞宗寺院大応寺か。

二十四日

(1) 孟子三言＝不詳。佐藤一斎『言志録』には、「讀書の法は當に孟子の三言を師

とすべし。曰く、意を以て志を逆ふ、と。曰く、盡くは書を信ぜず、と。曰く、

人を知り世を論ず、と。(讀書法當師孟子三言。曰以意逆志。曰不盡信書。曰知

人論世。)(一三九条、『佐藤一斎全集』第11卷一五一頁参照、明德出版社、一

九九一)とある。

二十七日

(1) 心喪＝喪服を着ずに、心の中で喪に服すること。

二十九日

(1) 廳事＝ここでは藩の役所、藩庁のこと。

十一月六日

(1) 大濱八幡神祠＝現在の愛媛県今治市大浜町にある神社。

(2) 闔村＝村じゅう。村全体。

八日

(1) 加藤珠文、名は淵、号は王香園、字は珠文。広島に人。詩文を秋陽に学ぶ。
 (2) 伯氏Ⅱ秋陽の兄、和助。名は董。『吉村秋陽』(既出、明德出版社) 一一頁参照。

十一日

(1) 煖房Ⅱ引つ越しの祝い。

十五日

(1) 灼艾Ⅱ灸を据える。

十六日

(1) 日吉村Ⅱ愛媛県越智郡にあった村。現在の今治市に位置する。

二十六日

(1) 國分寺Ⅱ現在の愛媛県今治市国分にある伊予国分寺。

(2) 脇屋義助(一三〇一〜一三四二)は、鎌倉から南北朝期に活躍した武将。新田

義貞の弟。伊予に渡り没す。

十二月七日

(1) 下酒Ⅱ酒の肴のこと。

十九日

(1) 撤帳Ⅱ塾を休みにすること。

文政十四年正月朔

(1) 履端Ⅱ塾暦のはじめ、元日。

二月朔

(1) 金匱釋義Ⅱ中国の医学書『金匱要略方論』(張仲景撰)についての注釈書か。

(2) 雌黄Ⅱ黄色の顔料。この雌黄を用いて詩文を添削した。ここでは「添削・批評」の意味で解釈した。

二日

(1) 波止濱Ⅱ現在の愛媛県越智郡に位置する。

十四日

(1) 登茂浦Ⅱ友浦(現在の愛媛県今治市宮窪町友浦)のことか。

十五日

(1) 鞆津Ⅱ鞆の浦(現在の広島県福山市鞆地区)のことか。

(2) 待潮楼Ⅱ福禅寺待潮楼(現在の広島県福山市鞆町)。

十六日

(1) 牛窓Ⅱ現在の岡山県瀬戸内市牛窓町。

十七日

(1) 室津Ⅱ塾現在の兵庫県淡路市に位置する。

十八日

(1) 赤石Ⅱ塾明石(現在の兵庫県明石市)のこと。

(2) 人丸祠Ⅱ柿本神社(兵庫県明石市人丸町)のこと。

二十一日

(1) 阿部良平、名は温、字は玉伯、号は縑州、良平は通称。大阪の篆刻家・詩人。

頼山陽の門人。讃岐の人。『良山堂茶話』を著す。

(2) 藤沢東畝(一七九四〜一八六四)、名は輔、字は元発、号は東畝。讃岐の人。

高松藩儒・大阪の儒者。古文辞学。一時山口西園に学ぶ。卒年に至るまで秋

陽と親しく交渉する。

二十二日

(1) 篠崎小竹(一七八一〜一八五二)、名は弼、字は承弼、号は小竹。豊後の人。

大阪の儒者。古文辞学から朱子学へ転向。篠崎三島の養嗣。

(2) 華表Ⅱ鳥居のこと。

(3) 銅字曰云々Ⅱ四天王寺にある鳥居(通称発心門)の扁額に「釋迦如来轉法輪處

當極樂土東門中心」とある。底本は「土」の一字を欠く。

二十三日

(1) 天満天神祠Ⅱ大阪天満宮(現在の大阪府大阪市北区天神橋)の別名。

(2) 斎藤町Ⅱ現在の大阪市西区江戸堀周辺のことか。

- (3) 西横堀Ⅱ現在の大阪市中央区と西区の境界周辺に位置していたか。
 (4) 井池筋Ⅱ塾現在の大阪市中央区を南北に走る井池筋。

二十四日

- (1) 住吉神社Ⅱ住吉大社(現在の大阪府住吉区)のこと。

二十八日

- (1) 漢府Ⅱ淀城下のことを指す。漢とは淀川のこと。

二十九日

- (1) 佐多天満宮Ⅱ佐太天神宮(現在の大阪府守口市佐太中町)のこと。
 (2) 男山八幡宮Ⅱ石清水八幡宮(現在の京都府八幡市)のこと。

三月朔

- (1) 荒井半蔵(一七七五〜一八五三)、名は公廉、字は廉平、号は鳴門、半蔵は通称。阿波の人。淀藩儒。朱子学者。那波魯堂・林述斎の門人。

- (2) 兼葭堂Ⅱ木村兼葭堂のことか。名は孔恭、字は世肅。大阪の人。

七日

- (1) 大山崎八幡祠Ⅱ離宮八幡宮(京都府乙訓郡大山崎町)のことか。

十一日

- (1) 養源Ⅱ養源院(現在の京都府京都市東山区)のことか。

十二日

- (1) 詩禪Ⅱ梁川詩禪(一七八九〜一八五八)、名は孟緯、字は公図、号は星巖・詩禪・鴨沂小隠。美濃の人。『吉村秋陽』(既出、明德出版社)一六頁参照。

十三日

- (1) 摩島Ⅱ猪飼敬所の門人摩島松南のことか。

- (2) 梅辻Ⅱ村瀬拷亭の門人梅辻春樵(兄)、あるいは梅辻星船(弟)のことか。

- (3) 卷弘斎、名は大任、字は致遠、号は弘斎。江戸の書家・誌人。

十四日

- (1) 頼子成(一七八〇〜一八三二)、名は襄、号は山陽、字は子成。

- (2) 中嶋子玉Ⅱ中島子玉(一八〇一〜一八三四)、名は大賁、号は米華、字は子玉。豊後の人。佐伯藩儒。朱子学者。広瀬淡窓・古賀侗庵の門人。

十五日

- (1) 北大路大学助Ⅱ北小路竹窓(一七六三〜一八四四)のことか。名は龍、字は天爵。京都の人。大炊介・大学助を歴任する。

十六日

- (1) 猪飼翁Ⅱ猪飼敬所(一七六一〜一八四五)、名は彦博、字は希文、号は敬所。近江の人。津藩儒。古義折衷学。

十七日

- (1) 長樂期寺Ⅱ現在の大阪府京都市東山区にある時宗寺院か。

二十五日

- (1) 秦邑光輪寺Ⅱ法輪寺(現在の大阪府京都市西京区)のことか。

- (2) 華頂山門Ⅱ知恩院(京都府京都市東山区)のことか。華頂山は山号。

二十九日

- (1) 南禅寺Ⅱ京都府京都市左京区にある臨濟宗寺院。

閏三月朔

- (1) 疝疔Ⅱ疝気、疝病。下腹部痛のこと。

十六日

- (1) 修学寺Ⅱ修学院離宮(京都府京都市左京区修学院)のことか。

- (2) 誓願時Ⅱ京都府京都市中京区新京極通りの浄土宗寺院。

〔附記〕

本稿を成すにあたって撮影・翻刻の許可を頂いた九州大学附属図書館に感謝いたします。